



マガジン
AJPS

2018
vol.35
Association
Japonaise de la
Presse
Sportive



ン S

D5



D5
未知なる光を、捕捉せよ。

I AM THE D5

未踏の領域を切り拓く、動体捕捉力。ペールを脱いだ、高感度性能。
153点AFシステム、進化した連続撮影性能、最高常用感度ISO 102400、4K動画機能…
すべての刷新は、かつてない光を捉える為に。世界はついに、新たな世界を手に入れた。
価格：オープンプライス

1億本
NIKKOR

ニコンカスタマーサポートセンター
0570-02-8000
www.nikon-image.com

一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30~18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日) ●ナビダイヤルがご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577 におかけください。●ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499へご連絡ください。

株式会社 ニコン・株式会社 ニコン イメージング ジャパン



At the heart of the image

A J P S

一般社団法人日本スポーツプレス協会(AJPS/
Association Japonaise de la Presse Sportive/以下
AJPS)は、国内外の第一線で活躍するフリーランスを
中心にしたスポーツ・ジャーナリスト(フォトグラファー、ライ
ター他)を中心に、「スポーツ・ジャーナリストの職能を確
立用語表現及び報道の自由に努め、もて日本のスポー
ツ界の発展に寄与すること」を目的として1976年6月1日
に創立されました。

当協会は、海外在住会員を含め181名の会員と賛助
会員21社(2018年3月現在)により構成され、あらゆる
角度からスポーツを捉え、多種多様な取材活動を展開
しております。特に最近ではその活動場所も国内に止ま
らず広く海外へと拡がり、様々な競技会場で当協会員
の取材活動を目にすることができます。私たちは協会発
足当時から国際的なスポーツ・ジャーナリストの組織で
あるAIPS(Association Internationale de la Presse
Sportive)への加入を目指し努力して参りました。その
結果、現在日本国籍のフリーランスのスポーツ・ジャー
ナリストがAIPSに加入できる唯一の団体となりました。

近年デジタル化による記録方や伝達手段の多様化
は、環境の急速な変貌に危機感や混乱すら生んでいま
す。しかし、ジャーナリズムの本質は不変です。今こそ幾
多の経験を生かす時であると考え、2010年5月に一般
社団法人日本スポーツプレス協会を設立しました。当
協会会員の様々な活動が、21世紀の日本のスポーツと
スポーツ・ジャーナリズムの発展につながるものと確信し
てやみません。



平昌で再認識した冬季五輪の「ちやうどよさ」

文／杉山茂樹

平昌冬季五輪。日本人がメダルに絡まない競技にも目を凝らした視聴者は多くいた。普段、目にする機会が少ないマイナースポーツが、マイナーではなくなつた瞬間だと言える。

夏季五輪は対照的に、日本人選手が活躍しそうな競技、あるいはメジャー競技に占拠される。テレビのチャンネル数と競技数のバランスの悪さが目立つ。供給過多で余裕がない。見逃しが多く存在するのが夏季五輪の特徴だ。

夏季五輪の種目数は冬季五輪の約3倍。肥大化が叫ばれて久しい夏季五輪だが、それは、頃合いがちやうどいい冬季五輪のテレビ観戦を通して露呈することになった。

冬季の方がテレビ向きと思われる理由は他にもある。夏季は、サッカー、テニス、前回リオ五輪から復活したゴルフに加え、来る東京五輪から野球も復活する。だが、例えばサッカーで金メダルを

獲得しても、世界だと認める人は誰もいない。テニス、ゴルフにも4大大会という晴れの舞台がある。五輪期間中に、それとは別の王者をあえて誕生させる必然性を感じない。その陰で、マイナー競技はよりマイナーになっていく。

サッカーはこの6月にW杯をロシアで開催する。こちらの試合数は、日最大で4試合。日本代表戦以外の試合を視聴する余裕がある。視聴者には好試合、名試合、すなわちサッカーそのものの魅力に遭遇するチャンスが与えられている。日本代表の勝利に感激してファンになる人より、ふと見た外国同士の試合を見て、ファンになる人の方がナチャルだ。

観戦者は大会後、大会前よりスポーツへの関心の幅をどれほど広げることができたか。「スポーツの祭典」に問われている大きなテーマだと思ふ。

04 Column
平昌で再認識した冬季五輪の“ちょうどよさ”

08 HEARTBEAT OF SPORTS
PyeongChang 2018 Olympic Winter Games
アジアの冬。結実した挑み続ける心。

21 **4seasons**
栃木プレクス
稀勢の里
マーメイドジャパン
ウサイン・ボルト
村上茉愛
川崎フロンターレ
明治大学ラグビー部

38 PARALYMPIC GEARS
世界を席巻する日本の技術

40 珍取材記
“真ん中じゃない”ハナシ



SanDisk®

使っているだけで「さすが」と思われる
メモリーカードは少ない。

カメラの性能を最大限に引き出す、最大300MB/秒の超高速データ転送。
究極のSD™カード、サンディスク エクストリーム プロ シリーズ



128GBの大容量
4Kにも最適な
UHSスピードクラス3**2対応!

最大 260 MB/秒
の書き込み速度

最大 300 MB/秒
の読み取り速度

サンディスク エクストリーム プロ
SD UHS-II カード

データ復旧ソフト「レスキュープロ デラックス」1年間利用特典付き

[信頼性]
[UHSスピードクラス3]
[究極のスピード]
[耐久性]^{*3}
[長寿命]
[テクノロジー]
[大容量]
[絶対の自信]

超高速性能・大容量

Extreme Series
エクストリーム シリーズ

サンディスクはプロカメラマンの73.6%*から「安心のブランド」と評価されました。Facebookでサンディスクの最新情報をチェック! @SanDiskJP サンディスク 検索

サンディスクは2017年「メモリーカード」量販店シェアNo.1**ブランドです。

*2017年8月当社調べ(複数回答あり)。詳細は当社Webにてご確認ください。https://www.sandisk.co.jp/campaign/landing/leader2017 **2017年メモリーカード、ブランド別数量金額シェア(全国有力家電量販店の販売実績集計/GfK Japan調べ)
*1 最大読み取り/書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読み取り/書き込みの速度は異なる場合があります。 *2 UJロゴは、4K動画やフルHD動画を最適に録画するためのスピードを有するUHSスピードクラス3を意味します。 *3 詳細は当社Webにてご確認ください。http://www.sandisk.co.jp/Corporate/proof/ 1.1メガバイト(MB)=100万バイト、1ギガバイト(GB)=10億バイト。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。 2. 機器によっては、SDXCカードやUHS-I/UHS-II規格に対応していない場合があります。詳細は各機器メーカーにお問い合わせください。 3. SanDisk、SanDiskロゴ、及びSanDisk Extreme Proは、米国及びその他の国におけるWestern Digital Corporationまたはその関連会社の商標です。SDXCのマーク及びロゴはSD-3C,LLCの商標です。その他の商標も特定の目的のためにのみ使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。



HEARTBEAT OF SPORTS

PyeongChang 2018

平昌 Olympic Winter Games

4年に一度、
オリンピックの舞台でしか
見ることが出来ない
“Passion—情熱—”。
氷上で、雪上で、極められた
強く美しい一瞬に
心を奪われる17日間が
そこにはあった。







©Seinosuke Uchigasaki



©Takamitsu Mifune

アジアの冬。結実した挑み続ける心。

文：折山淑美

2月25日に閉幕した平昌五輪は日本冬季競技界にとって、収穫の多い大会となった。その中でも最大の収穫は、スピードスケートの充実だ。前回の14年ソチ五輪は10年バンクーバー五輪で銀メダルを獲得した女子パシュートの4位が最高で個人種目も男女500mの5位が最高。男女12種目で23個とメダルを量産したスケート王国オランダの強さを見せつけられた。だが今回は充実の女子が金3を含めて6個のメダルを獲得し、金メダルはオランダと2国で分け合った。また男子も世界には遠いと予想されていた1000mと1500mで小田卓朗がともに5位になるなど、健闘する姿を見せたのだ。

男女中・長距離の充実は日本スケート連盟のソチ後の取り組みの成果だ。ナショナルチームに重きを置き、15年からはオランダ人のヨハン・

デヴィットをオールラウンドチームのヘッドコーチに招聘。「ヨハンが来たことで試合に対する練習での取り組みが明確になり、それまでやってきたことが生きてきた」と高木美帆はいう。彼女が大黒柱に成長したことでチームパシュートも充実。その相乗効果が平昌でのメダル獲得につながったのだ。

一方、小平奈緒は個人の努力とコーチとの連携で頂点に辿り着いた。ソチ五輪後は2年間オランダを拠点にしたことで、直線の滑りの技術を身につけるとともに自分にはどういう練習が必要かということが明確になった。帰国後の昨シーズンは500mで全勝した他、世界スプリントでは短距離総合の世界記録を樹立。今季も500mで圧倒的な強さを見せるだけでなく1000mでも世界記録を樹立と、結城匡啓コーチとともに目指してきた500mから1500mまで滑れてきた選手という完成形に近づいてきたのだ。

そんな小平が今大会で最大の目標にしたのは、500mの低地での36秒台突入だった。標高1000mを超える高地のリンクでは自身を含めて過去6名が記録している36秒台。空気抵抗が大きい低地の江陵オーバルで昨年行われた世界距離別選手権で、それまでの低地世界最高記録を0秒11上回る37秒13を出してから意識し始めていた記録だ。

世界記録保持者として臨んだ4日前の1000mはヨリン・テルモルス(オランダ)に優勝をさらわれて2位だったが、500mへの自信は

揺るがなかった。開幕前7日のタイムトライアルでは、自身が今季のW杯第2戦で出していた37秒07の低地最高と上回る37秒05を出していたからだ。「本番になればリンクの条件も体の条件も良くなる、もっといい記録は出る」という自信。金メダルを期待される重圧も「目標は36秒台。それを出しても負けるなら、それはしかたないこと」という達観した気持が消滅させていた。その結果出たのが36秒94。出すべくして出した記録であり、手にすべくして手にした金メダルだった。

自分自身の力を信用し、狙って獲った金メダルという面では、男子フィギュアスケートの羽生結弦も同じだった。11月のケガで水上練習を再開できたのは1ヶ月前で、4回転ジャンプを跳べるようになったのも江陵入りする2週間強前という状況。痛み止めを服用しても、踏み切りで右足を使うルッツとループを跳ぶ時は痛みが出る状態だった。

そんな中で光ったのは、羽生の冷静さと自分への信頼の高さだった。練習ではジャンプの本数制限をする状態ながら、サルコウとトゥーループ2種類の4回転ジャンプだけでもノミスの演技をすれば、各要素で加点を得られるという自分の持ち味を生かして勝てると思った。「アクセルもサルコウもトゥーループも本当に何年間も付き合ってくれたジャンプ。自分の体が覚えていると思っていた」というように、SPではジャンプも無駄な力を使わずにきれいに決めて演技全体をコントロールする

ような冷静な滑りで111・68点を獲得。翌日のフリーも丁寧な滑りでジャンプをしっかりと決め、ミスを最小限に抑えて合計を317・85点に。羽生はあとふたりを残し、演技終了時点で勝利を確信したという。66年ぶりの五輪連覇は「今の状況で勝つために何をすべきか」を考え抜いて実行した、強い意志がもたらしたものであった。

それとは違ってホツとするような暖かい気持が沸き上がってきたのは、女子ジャンプ高梨沙羅の銅メダル獲得だった。4年前のソチ五輪は絶対女王として臨みながら、調子の波が落ちていたこともあって4位とメダルを逃した。見ている側とすれば「体も小さく身体能力も低いから努力するしかない」とコツコツと努力を重ねてきたことを知るからこそ、その不運を恨むような気持にもなった。そして今季はライバルの急成長があり、W杯未勝利で本番を迎えた。それでも高梨の表情は、4年前の追い詰められたようなものとは違って穏やかだった。強い選手の台頭を「女子ジャンプを活性化させてくれるもの」と受け入れ、彼女たちに追いつき、追い越すことを意識する一競技者に戻れたからだ。そんな中での銅メダル獲得は、彼女自身も涙や笑顔で受け入れたように、本物の勲章だったのだ。

これまでの冬季五輪に比べれば、スケート会場のある江陵とスキー・ソリ競技が行われる平昌地区のアクセスは短時間ですむコンパクトな会場設定だった平昌五輪。テレビでは



©Takamitsu Mifune



©YUTAKA



©Takamitsu Mifune



©YUTAKA



©Takamitsu Mifune



©Masaharu Sugawara



©Hiroyuki Yakushi



©Takao Fujita



©Seinosuke Uchigasaki



©Seinosuke Uchigasaki



©Seinosuke Uchigasaki



©Takamitsu Mifune

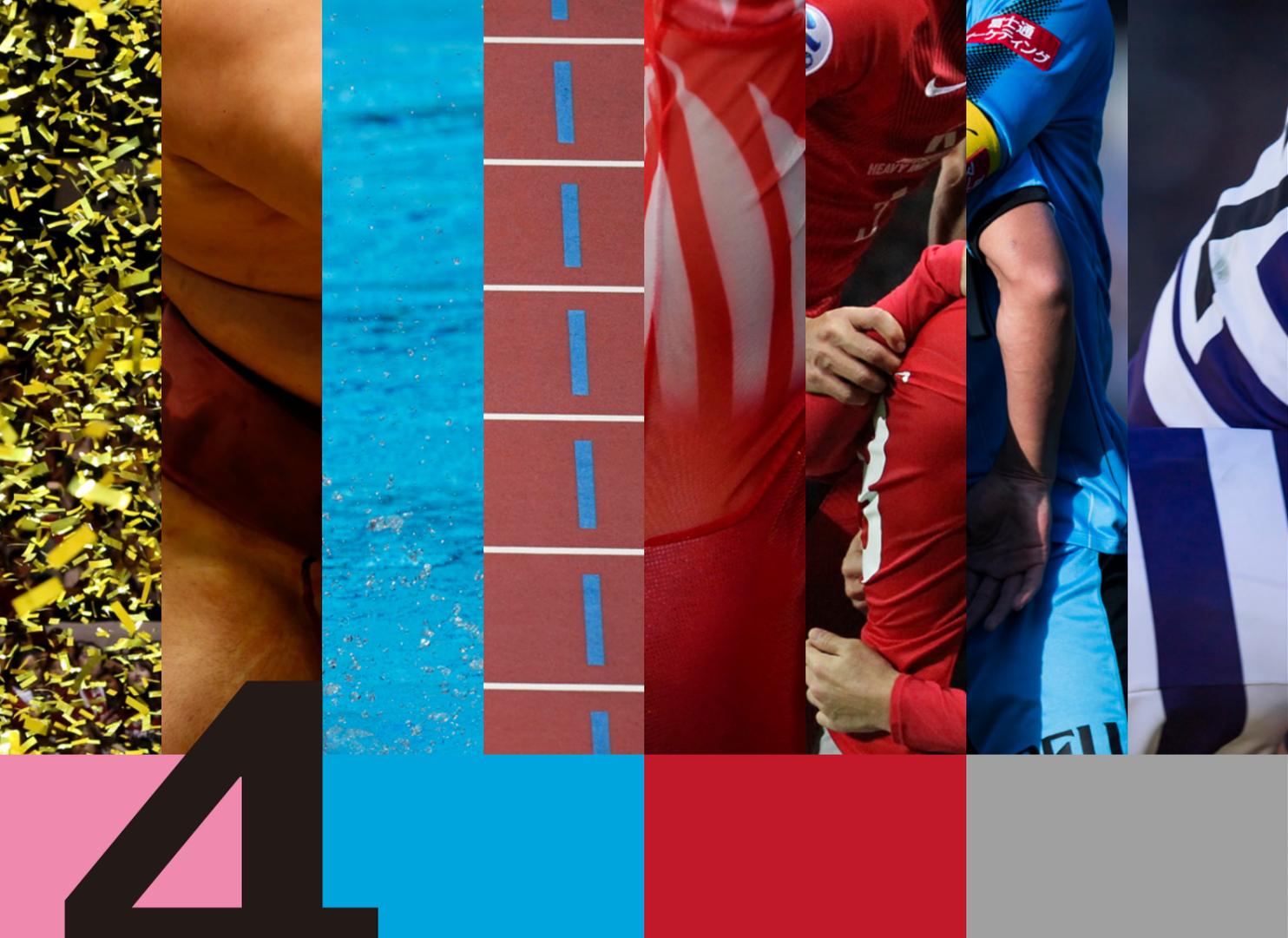


©Hiroyuki Yakushi

「極寒、極寒」と表現されたが、大会期間中の最低気温は氷点下10度前後。ただ風が強いこともあって体感気温は低く、試合が深夜になったジャンプは風待ちの時間もあって選手は苦労した。アメリカやヨーロッパのテレビ局の意向で開催時間を制限される弊害もあるのは確かだが、それは自然も相手にしなければいけない雪上競技ではたまにはあることであり、選手たちは悪条件との戦いも覚悟している。そんな中でも男子ノーマルヒルでは体感気温が氷点下20度近くになる2本目に、風待ちのために5回ほどゲートから外されていたベテランのシモン・アマン（スイス）が集中力を途切れさせずK点を大幅に超える104.5mを飛んで大きなガッツポーズを見せた。11位という結果はともかく、それこそ賞賛されるべきものだろう。

また五輪で最も重要なのは、開催国の人たちが盛り上がりだ。その点では今回韓国は、これまで実績のあるスピードスケートやショートトラックだけではなく、男子スケルトンで優勝し、男子ボブスレー4人乗りではドイツと同タイムで2位という結果を出した。さらに最終日に設定された女子カーリング決勝も、銀メダルとはなったが韓国が決勝進出を果たしてその期待に込めている。金5を含めてメダル総数17で国別ランキング7位となったのも、平昌五輪を盛り上げるものになったといえる。

強風による試合日程の変更もあったものの、17日間の戦いは心地好い後味を残すものだった。



4 seasons

春
Spring

栃木ブレックス 文/生島淳
稀勢の里 文/木下健二

夏
Summer

マーメイドジャパン 文/藤田孝夫
ウサイン・ボルト 文/生島淳

秋
Autumn

村上茉愛 文/矢内由美子
浦和レッドダイヤモンズ 文/中山淳

冬
Winter

川崎フロンターレ 文/飯尾篤史
明治大学ラグビー部 文/スエイシナオヨシ

OLYMPUS®

Your Vision, Our Future



Move into a New World

OM-D
E-M1 Mark II

Ver.2.0
Firmware Upgrade

高速連写/高速AF

- AF/AE追従で、最高約18コマ/秒を実現^{*1}
- 121点オールクロス像面位相差AFセンサー搭載のDUAL FAST AF
- 120fpsの高速フレームレートのEVF

高信頼性/機動性

- 防塵・防滴・耐低温(-10°C)設計
- 20万回^{*2}の耐久性試験をクリアしたシャッター
- 2枚の記録メディアを同時に使用できるダブルスロット対応

高画質

- 新開発20M Live MOSセンサーとTruePic VIII
- 50M/ハイレゾショット
- 最大6.5段分^{*3}、5軸シンクロ手ぶれ補正

^{*1} M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO 使用時、連続撮影速度は、使用レンズ、明るさ、絞り、シャッター速度、露出補正、ISO感度など、いろいろな撮影条件によって低下することがあります。
^{*2} 当社測定条件による。^{*3} 使用レンズ:M. ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO 焦点距離 f = 100mm (35mm判換算 200mm相当)、CIPA規格準拠 2軸加振時 (Yaw/ Pitch) 2016年11月現在

製品の詳細については弊社ホームページでご確認ください。 <https://olympus-imaging.jp/>

お問い合わせ【オリンパスカスタマーサポートセンター】(ナビダイヤル)0570-073-000 ※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

営業時間:平日および土曜・日曜・祝日 9:30~18:00 ※年末年始、システムメンテナンス日はお休みさせていただきます。

オリンパス株式会社

オリンパスギャラリーのご案内

オリンパスギャラリーでは、写真文化の普及・向上に貢献することを目的に、さまざまな写真展を行っています。

オリンパスプラザ東京

営業時間11:00~19:00
木曜定休
〒160-0023
新宿区西新宿1-24-1
エステック情報ビルB1
Tel: 03-5909-0191



オリンパスプラザ大阪

営業時間10:00~18:00
日曜・祝日定休
〒550-0011
大阪市西区阿波座1-6-1
MID西本町ビル
Tel: 06-6535-7911





©Yoshio Kato

日本のバスケットボールは面白い。

栃木ブレックス TOCHIGIBREX

栃木と川崎。生まれたばかりのBリーグの初代王者決定戦は、いい決勝戦になった。

2つのリーグが存在し、国際バスケットボール連盟(FIBA)から「ダメ出し」された日本バスケットボール界。川淵三郎氏のリーダーシップのもと、Bリーグが発足したのは2016年の秋のこと。開幕戦は東京と琉球の間で行われた。代々木第一体育館のフロアをLEDに仕立てるなど、華やかな演出が話題となったが、肝心のゲー

ムの内容が鑑賞に堪えうるものかどうかは、まだ分からなかった。

しかし、その不安は杞憂に終わる。シーズンが進むにつれ、Bリーグは充実度を増していく。千葉、秋田、滋賀、琉球をはじめとした熱狂的なファンがチームを支え、試合も接戦が増えた。

そして王者を決めるチャンピオンシップが始まると、「物語」が生まれ始めた。

その中心にいたのが栃木ブレックスである。チャンピオンシップ

に入って千葉、三河に苦戦しながらも勝ち抜き、川崎とのファイナルに挑む。一進一退の攻防のなか、最終第4クォーターに入って栃木は逆転、特に36歳の「ミスター・バスケットボール」、田臥勇太がルースボールに飛び込む姿は、初代王者への並々ならぬ意気込みを感じさせた。

Bリーグ、初代王者栃木。彼らはチャンピオンシップを通じて、「日本のバスケットボールは面白い」ということを体現した。

文/生島淳



©Kenji Kinoshita



©Yoshikazu Suzuki

彼は相撲というものにスタイルを持っている。

稀勢の里 KISENO SATO

力士には皆、四股名の下に名前が付いている。多くの力士は本名を使っている、稀勢の里の名前は本名の寛である。(本名は萩原 寛) 寛の言葉の意味を調べてみると、ひろい、ゆるやか、心がひろい、ゆとりがある、とある。

僕は稀勢の里が好きだ。それは強いモンゴル勢の中で頑張っている日本人であるということもあるが、それだけではない。彼は相撲というものに間違いなく彼なりの流儀、スタイルを持っている。取り組み前の塩撒き、四股踏みにそれを強く感じる。彼は塩を撒くタイミングを極力対戦相手の力士の塩撒きに合わせようとする。自分だけの考えで決して塩を撒かない男なのだ。四股踏みもソフトだ。それは僕には鶴の舞いのように見える。あの体で鶴の舞いだ。塩撒

き、四股踏み、取り組み、退場——。その全てを通して初めて“彼の相撲”になるのだ。

彼は優しい人間なんだと思う。優しく、口下手で照れ屋。インタビューは苦手。一言二言しか喋れない。こんな優しい人間は、相撲には向いてないのかもしれない。しかし彼の相撲にはそれを隠すかのように力強さがある。あれは絶対にその隠しなんだと思う。でも時折、その優しさが相撲に現れてしまう時がある。どちらかというと大型の力士である彼は、自分よりも小さい、もしくは格下の相手になると、最初の当たりがあまり力強くないのだ。僕が稀勢の里をそう見ただけなのかも知れない。でもそんな男、“稀勢の里 寛”が僕は大好きだ。

文/木下健二



©Takao Fujita



©Takao Fujita

「アーティスティックスイミング」へ。

マーメイドジャパン MERMAID JAPAN

今年から「シンクロナイズドスイミング」は「アーティスティックスイミング」へと呼称が変わる。より注目を集めるために看板を架け替える様は、いつの世も同じだ。ただシンクロ“同調”が“アート(芸術)”かと問われれば、日本チームの魅力は前者にあったような気がする。

シンクロは典型的な採点競技である。数値的な客観的評価は多少あるにせよ、陸上で行われる新体操やフィギュアに比べると、主観的な要素が強い。だからこそ、いわゆる下馬評というか勢力図を塗りかえることが非常に難しい。昨夏の世界水泳(ブダペスト)での成績が、現状シンクロ界の勢力図ということになる。総合的に言うと、1位ロシア、2位中国、3位ウクライナ、4位日本。重要なのは結果の順位ではなく、この序列が審

判にインプットされることにある。2020東京五輪を目標に掲げる日本にとって、その序列を覆すことは並大抵ではない。だが日本には、井村雅代という強烈なカリスマと求心力をもったヘッドコーチがいる。彼女もまた審判のマインドにあるとしたら、これはかなりの武器になる。

「愛があるなら叱りなさい」
井村の著書に、そんなタイトルの一冊がある。今の時代、どの社会に照らし合わせてもコンプライアンス的に危うさが漂う言葉だが、不思議とシンクロの世界にはよく似合う。時に鬼とまで形容される井村に食らいつく選手たちの瞳が、俗な批評を寄せつけないからだ。担う覚悟と信じる覚悟。マーメイドジャパンが新たな海を泳ぎ始めた。

文／藤田孝夫



©Tutomu Kishimoto

「世界で知らぬ者はいない『ポップスター』」。

USAIN BOLT ウサイン・ボルト

2008年、北京オリンピックでの衝撃。そして2009年のベルリン世界陸上では100mで9秒58の世界記録をマーク。

ウサイン・ボルトは単なるスプリンターとしてだけではなく、そのお茶目な性格も手伝って、世界で知らぬ者はいない「ポップスター」となった。

そのボルトがラストランの地として選んだのが、ロンドン世界陸上。5年前のオリンピックで金メダルを獲得した緑起のいい場所だ（オリンピックが終わってから、

俳優のミッキー・ロークと駆けこした土地でもある。なんと、ボルトはこの勝負では負けている）。

誰もがボルトが「有終の美」を飾ることを望んでいたが、なんと100mではジャスティン・ガトリン（アメリカ）に敗れ、3位に終わった。ロンドンの観客はボルトの敗戦を予期しておらず、腹立ち紛れに、過去に禁止薬物違反の経歴があるガトリンに対して容赦のないブーイングを浴びせた。それは異様な光景だった。

そして、ボルトの正真正銘のラ

ストランは400mリレーのアンカー。イギリス、アメリカに先行を許したジャマイカは、ボルトに逆転の夢を託す。ところが――。

ボルトがトラックにうずくまった。故障だ。誰もが息を呑んだ。ポップスターの結末がこんなことになるなんて――。

すべてが望み通りの結末になるわけではない。ボルトのラストランは改めて陸上の厳しさを教えてくれた。

文／生島淳



©Tsutomu Kishimoto



©Tsutomu Kishimoto

武器は、抜群の脚力と空中感覚。

村上茉愛 MAI MURAKAMI

日本女子体操界に革命が起きたのは、2017年10月にカナダ・モンクトリオールで開催された世界選手権でのことだった。

村上茉愛が種目別「ゆか」で世界の強豪たちを退けて金メダルを獲得。日本女子の金メダルは、1954年ローマ大会で「平均台」優勝を飾った田中（現姓池田）敬子さん以来、63年ぶりにして史上2人目という快挙だった。

「周りを気にせず演技できました。人生で一番良い演技。“今回は金メダルを狙っています”と言ってきて、初めて有言実行できました」

満面に笑みを浮かべ、くりっとした目を輝かせた。

従来の日本女子のイメージを覆す金字塔だった。かつての日本女子は、繊細な技術とバランス感覚

が必要な「平均台」や「段違い平行棒」を得意とする選手は出てきても、パワーが必要な「ゆか」や「跳馬」では世界にかなわないという時代が続いていた。そんな中での「ゆか」の金メダル獲得。これはまさに革命的と言える。

武器は、抜群の脚力と空中感覚を生かして行う難度の「シリバス（後方抱え込み2回宙返り2回ひねり）。世界でも数えるほどしか成功例のないアクロバットを軽やかにこなしてしまう村上は、「ゴムまり娘と呼んでください」とキュートなアピールも欠かさない。

2020年東京五輪ではゆかの金メダルはもちろん、個人総合でも表彰台を目指す“ゴムまり娘”。バワフルな演技に注目だ。

文／矢内由美子



©Masashi Hara



©Mitsuaki Nakajima

クラブとファンの理想的な関係

浦和レッドダイヤモンズ URAWA RED DIAMONDS

2017年師走のこと。米スポーツ専門テレビ局「フォックス・スポーツ」のアジア電子版が、「最もハードコアなサッカークラブのファン5選」というタイトルの記事を配信した。驚いたことに、その中にはバルセロナ、リバプール、リーベル・プレート、ガタラサライといった世界的名門クラブに加え、日本の浦和レッズのファンが選出されていた。

浦和以外の4クラブは、いずれも一世紀以上の長い歴史を持つ名門クラブ。しかも、世界にはこれらのクラブ以外にも名門と呼ばれるクラブが数多くある中で、プロサッカーリーグが誕生してまだ四半世紀を数えたに過ぎない日本のクラブが選出されたのである。海外で発信されたこの英文記事を読み、誇らしい気持ちになった日本人サッカーファンは多かったのでは

はないだろうか。

遡って2017年霜月のこと。後に世界五指に数えられるファンを持つ浦和が、アジアの頂点の座をかけてサウジアラビアのアル・ヒラルと2度に渡って合いみえた。敵地で対戦した1度目はアウェイゴールを奪って1-1のドロー。その一週間後、本拠地埼玉スタジアムは、「フォックス・スポーツ」も絶賛した世界屈指の美しいコレオグラフィーで彩られていた。

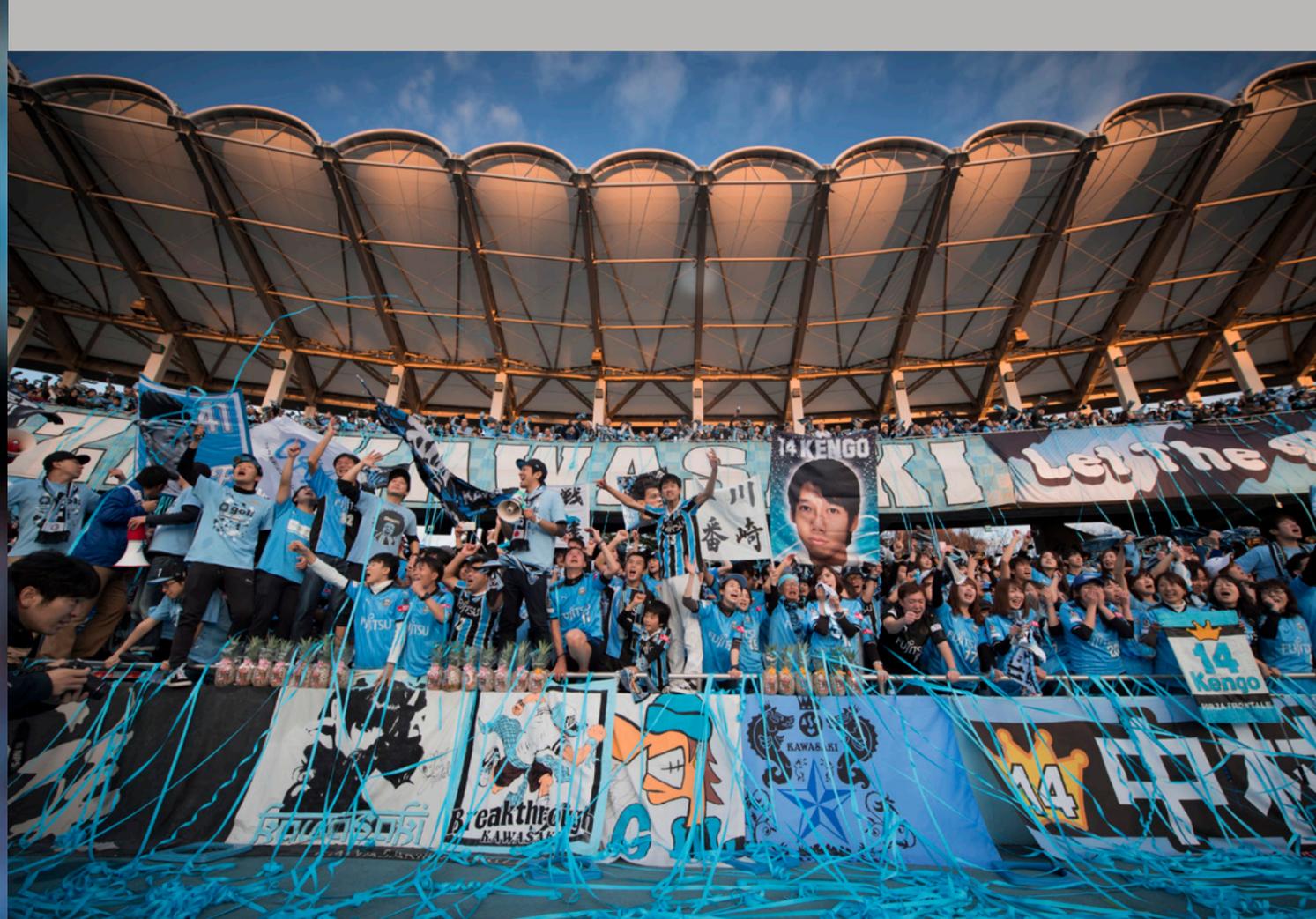
最高の舞台で行われた2度目の対戦は、試合終了間際に決定的な1ゴールを奪った浦和が勝利。浦和がアジアの頂点に立ったのは、10年ぶりのことだった。

ファンのクオリティがチームの勝利を呼び、チームの勝利がファンの評価を高めていく。クラブとファンの理想的な関係が、2017年の浦和レッズにあった。

文/中山淳



©Naoyoshi Sueishi



©Naoyoshi Sueishi

何度も掴み損ねた初タイトル。

川崎フロンターレ KAWASAKI FRONTALE

「長かった。本当に長かった」
試合後、中村憲剛が絞り出した言葉がすべてを言い表していた。5度のカップ戦準優勝と、3度のリーグ戦2位。何度も掴み損ねた初タイトル。「このまま引退するんじゃないかと思っていた」と中村が言うのも無理はない。だが、悲願はリーグ優勝という最高の形でもたらされた。17年J1最終節、大宮を5-0と撃破した川崎に朗報が届く。首位の鹿島が磐田と引き分け、川崎の逆転優勝が決まるのだ。その瞬間、中村は膝から崩れ落ち、地面に突っ伏した。「これまでのことが走馬灯のように蘇ってきた」そんな中村の傍らに、同じく号泣する小林悠がいた。

17年は中村からキャプテンを引き継いだ。キャプテンとエース。ふたつの重責を果たして迎えた最高の結末だった。「最高の気分。優勝ってこんなに気持ち良いものなのかと驚いた」試合終了から1時間後、小林は晴れやかな表情で言った。今や彼らをシルバーコレクターと揶揄する者はいない。ただし、真価が問われるのは18年シーズンだ。食欲にタイトルを積み重ねていけるかどうか。「前年王者という驕りは一切ないです。今年もチャレンジャーのつもりで戦っていく」今季も腕章を巻く小林は誓う。永遠のチャレンジャー——。その姿勢こそ、川崎を真の強豪へと押し上げる。

文/飯尾篤史



©Naoyoshi Sueishi



©Naoyoshi Sueishi

9連覇達成。ノーサイドのホイッスルが鳴った瞬間、歓喜したのは今年も赤い常勝軍団であった。

秩父宮で行われた、第54回全国大学ラグビーフットボール選手権大会決勝戦は、2009年から勝ち続ける帝京大学と、1998年以来21季ぶりに王座奪回を目指す明治大学の対戦。試合は、前半10点リードした明治大学であったが、スロースターター帝京大学は、計算したかのように後半に修正し、21-20と逆転に成功。明治大学はわずか1点の差に涙を飲んだ。

明治のラグビーといえば、「前へ前へ」。真っ直ぐ前に出るスタイル。関東大学ラグビー対抗戦優勝15回、大学選手権優勝12回、日本選手権優勝1回と過去多くの名勝負繰り広げてきた。旧国立競技場で行われた早明戦はいつも満員にしていた。ここ数年の明治も早明戦だけは、勝敗にかかわらず、魂が入る試合を見せてくれた。

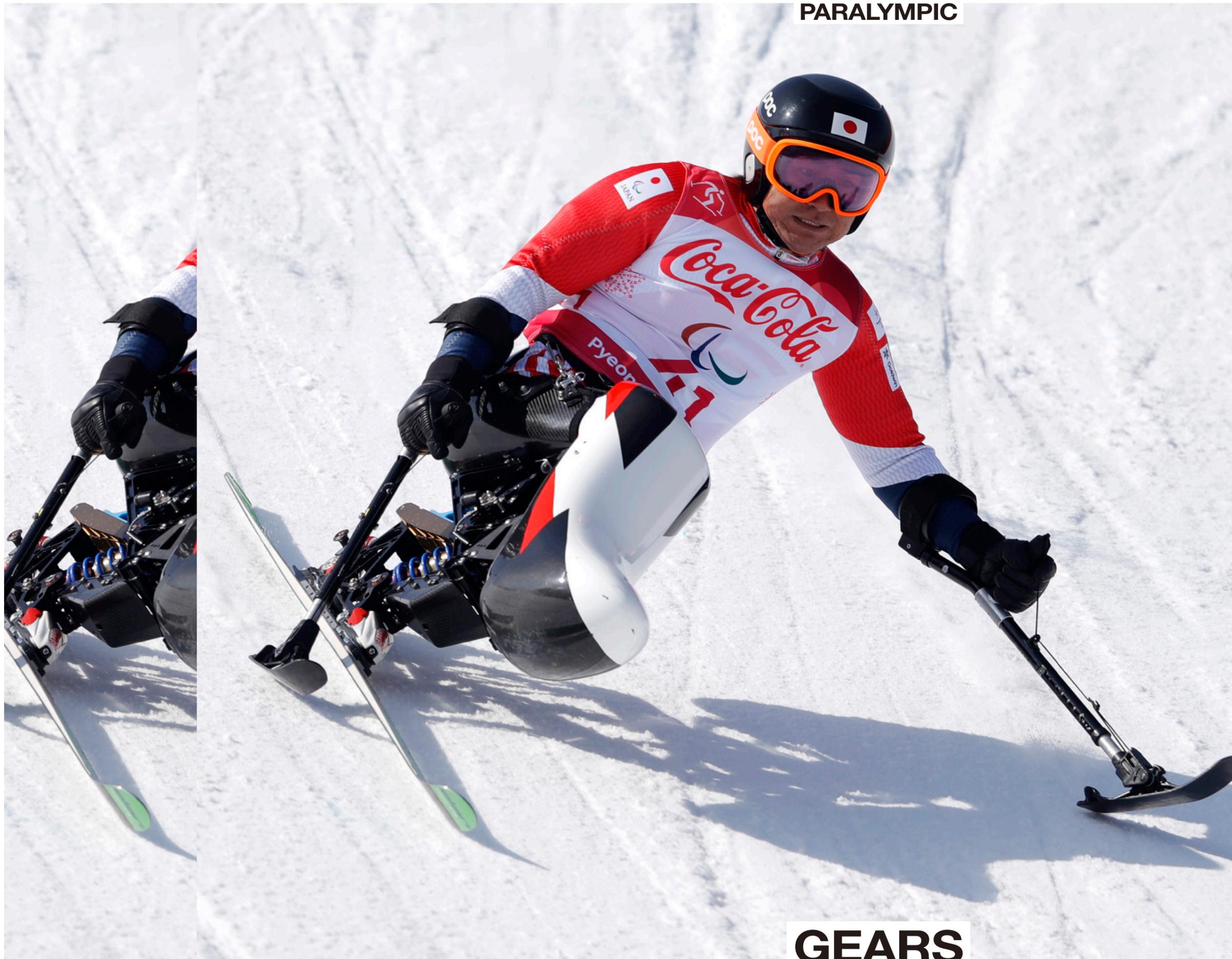
その明治魂のようなものをこの試合で久しぶりに見ることができたような気がする。「前へ」の精神に現代のラグビー要素を取り入

れた選手の顔には、戦う表情があり、その身体には勝利を渴望するオーラが漲っていた。彼らから出たアドレナリンは、想像以上の力を引き出した。

そこには、彼らの戦いを支える精神がある。『腹をくくって、負けてなるものかという強い気持ちで向かうことに真髄あり』——長きに渡って語り継がれてきた明治ラグビー部精神が、再びペガサスの翼を広げ、王座奪回へ飛び立たせようとしている。

文/スイシナオヨシ

その身体には勝利を渴望するオーラが。



GEARS

PARA-ATHLETE'S MATERIAL

©Yusuke Nakanishi

世界を席巻する日本の技術

文 宮崎恵理

3月9日に開幕した平昌パラリンピック。パラリンピック冬季大会の花形は、何と言ってもアルペンスキーだ。

パラアルペンスキーは、大きく立って滑ることができる(立位)、スキーに座る部分を装着したチェアスキーを操る(座位)、視覚障害の3つのカテゴリに分かれて競技が行われる。日本は、男子座位が常にトップの一角を担う。06年トリノパラリン

ピック大回転で初めて銀メダルを獲得して以来、バンクーバー、ソチと3大会連続でメダルを獲得している森井大輝、バンクーバー大会のスーパー大回転、ソチ大会では滑降とスーパー大回転で2個の金メダルを獲得した狩野亮、そしてソチ大会回転で金メダルを獲得した鈴木猛史。

1998年の長野パラリンピックを機に、日本の車いすメーカー、障害者スポーツセンター、企業が一体となってチェアスキーの開発に着手した。平昌大会の日本選手団団長を務める大日方邦子は、長野モデルを使用して金メダルを獲得。そこからさらにソルトレイクシティー、トリノと、大会ごとにチェアスキーは進化してきた。

この性能を生かすために、選手たちは自分の体重や障害の状態などから最適なポジションで乗れるような調整を、それぞれミリ単位で重ねてきたのである。同じマシンを使えば誰でも金メダルが取れる、というものではない。マシンの開発と選手の努力が融合して初めて世界の頂点に立てるのである。

平昌パラリンピックに向けて、ペー

SONY

カメラを、もっと先へ。

BE MOVED

勝負の一瞬に答える。

決定的な瞬間は、唐突に訪れる。

その一瞬を、逃さないために。

ソニーのセンサー技術の結晶、

世界初*1のメモリー内蔵35mmフルサイズ積層型

CMOSイメージセンサーを搭載した

ミラーレス一眼、誕生。

最高20コマ/秒*2のブラックアウトフリー連続撮影*3

最大60回/秒*4の演算によるAF/AE追従。

693点の像面位相差検出AFセンサー。

一度きりの熱狂を、意思のままに写しきる。

そのために必要なもの、すべてがここに。



α9



世界初*1

メモリー内蔵35mmフルサイズ積層型

CMOSイメージセンサー搭載ミラーレス一眼カメラ

さあ、見たことのない世界へ。
α Universe

α9を体験したプロフェッショナルの声と、
生み出された作品をスペシャルサイトで限定公開中。

α universe

検索



*1 メモリー内蔵積層型を採用した35mmフルサイズイメージセンサー搭載のレンズ交換式デジタル一眼カメラとして、2017年4月21日広報発表時点。ソニー調べ *2 連続撮影モード「Hi」時。シャッタースピードが1/125秒以上の場合に有効です。AF-Cモード時は、装着レンズ、撮影モードによって最高連写速度が異なります。また、装着レンズによってソフトウェアのアップデートが必要になる場合があります。互換情報詳細については、ソニーサポートサイトをご覧ください。www.sony.jp/support *3 電子シャッター使用時に有効です。ミラー構造を持つ一眼レフカメラは、シャッターリリース時にブラックアウト(静止画撮影中のミラーアップによるファインダー像の消失、メカニカルシャッターによる遮光)しますが、本機は電子シャッター撮影によりブラックアウトしません。絞り値をF11より大きくすると、フォーカスは被写体に追従しません。1枚目の撮影時のフォーカス位置に固定されます。また、シャッタースピードが1/125秒より遅くなると、画面表示の更新が緩やかになり、シャッタースピードが1/8秒より遅い場合は電子シャッターが使用できません *4 シャッタースピードが1/125秒以上の場合に有効です。装着レンズ、カメラ設定によって演算回数は異なります

◎商品を安全に使うため、使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください ◎あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほか、著作権法上、権利者に無断で使用できません ◎購入の際には、必ず「保証書」の記載事項を確認のうえ、大切に保管してください ◎SONY、αおよびαロゴはソニー株式会社の商標です ◎買い物相談窓口 ☎0120-777-886 携帯電話、PHS、一部のIP電話からは、050-3754-9555まで。受付時間 月~金 9:00~18:00 土・日・祝日 9:00~17:00

sony.jp/ichigan/

取材記 珍



“真ん中じゃない” ハナシ

文/早草紀子

穏やかな気候、晴れ渡った空、透き通る海、海辺のカフェでビール…年イチで私に癒しを与えてくれるのがポルトガル出張。が、最近どうも雨率が高い。今年に至っては毎日が雨。晴れ女の私もとうとう試合当日にも見舞われた。バケツをひっくり返したような雷雨に、あえなくピッチは水没した。

アップを始めた選手たちを横目に、懸命に水をはけようと開始直前までいるんところに器具をぶっ差しては起こし、また差しては起こすという作業をひたすら繰り返してくれた…おじさん二人で。いや、全然人手足りてませんからっ!! 雨は上がったものの、最初のスライディングでありえな

いところまで滑り倒し、選手はほぼズブ濡れになった。

4本の腕でいったい何リットルの水を逃がすことができたのか、はなはだ疑問ではある。でも、とてものがんばってくれた気持ちは十分に伝わってきたので、やっぱりこれだな。

おじさん方、ありがとう!

HCL ネットサービス

HORIUCHI COLOR LTD.

感動を再現する。



デジタル銀塩プリントを極める

ネットdeザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

銀塩フォトブックを極める

ネットdeザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高品質銀塩写真、見開きはフルフラット仕様の製本で高級感溢れる銀塩フォトブックができます。

インクジェット・プリントを極める

ファインアート・プリントサービス

作品イメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数の7種類のアーティスト用紙でご提供します。それぞれの個性と美しさをお楽しみください。

各サービスの詳細やご注文はホームページから…www.horiuchi-color.co.jp TEL.03-3295-2191



AJPS マガジン

Association
Japonaise de la
Presse
Sportive

vol.35

制作

スエイシナオヨシ 早草紀子 三木麻里

デザイン

本多伸二

文字校正

折山淑美 杉山茂樹

広告

水谷たかひと 岸本勉 竹内里摩子

編集・発行人

水谷章人

印刷

株式会社 誠晃印刷

編集・発行所

一般社団法人

日本スポーツプレス協会 (AJPS)

〒112-0013

東京都文京区音羽 1-21-10 関根ビル 603

TEL:03-3946-9033 / FAX:03-5981-9606

http://www.ajps.jp/

※各原稿は2018年3月15日現在の内容です。本誌掲載記事・写真を無断で転載することは固くお断り申し上げます。

AJPS マガジン vol.35 March 31 2018

定価 500 円(税込)

編集後記

文筆者 早草紀子

夏季オリンピックは毎大会現場で馬車馬のように働いている身としては、冬季オリンピックは大会の外から全力で楽しめる数少ないビッグイベントだ。日本人選手の活躍を見ようと、テレビのリモコンを片手に各局のザッピングがお手のものになってきた頃、幕を閉じた。

今大会は本誌の制作側の視点を持ちながらの観戦、ひよっとしたら一度体感した場面が、撮影者&執筆者の手によってまた異なる一面を見せてもらえるベストポジションだったのかもしれない。怒涛の日々と引き換えに手にした賜物と捉えることにする。

相も変わらずドタバタの制作期間だった……。過酷な日程にも関わらず、ご協力いただいたすべての方々に心からの感謝を。

一般社団法人 日本スポーツプレス協会賛助会員 (2018年3月現在、アイウエオ順)

株式会社 朝日新聞出版 アサヒカメラ編集部、有限会社 イマジン・アートプランニング

オリンパス株式会社、株式会社学研プラス CAPA 編集部、キヤノンマーケティングジャパン株式会社

銀一株式会社、サンディスク株式会社、株式会社 ジェイワールドトラベル

株式会社写真弘社、ソニーマーケティング株式会社、学校法人 専門学校 東京ビジュアルアーツ

株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン

学校法人 タイケン学園 日本ウェルネススポーツ大学、株式会社 日本写真企画 フォトコン編集部

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社、株式会社フレームマン

株式会社 堀内カラー、ヴァイテックイメージング株式会社(旧マンフロット株式会社)

山本光学株式会社、ワイズ・スポーツ株式会社 スポーツナビ編集部

**パーフェクトを狙え。
ジッツオ カーボン一脚**

GITZO

プロフォトグラファーに
選ばれる堅牢性と信頼性。
gitzo.jp

写真の一脚はカーボン一脚4型6段 GM4562

輸入総販売元:ヴァイテックイメージング株式会社
(2018年4月 マンフロット株式会社より社名変更)
TEL.03-5404-6871(代) info@gitzo.jp

取り扱いブランド: マンフロット / ジッツオ / ラストライト / ロープロ / 他

新大型石突
地面をしっかりクリップし、
被写体が追いやすい設計。

Canon

make it possible with canon

極限のドラマを記録する。

世界記録、大会記録。人類の限界が更新される瞬間をいつも最前線で見つめてきたのが、プロフォトグラファーとキャノンの「1」だった。描写力、高速性、信頼性、そして操作性。すべてにおいて最も優れた機材だけが選ばれ、踏み込むことを許される舞台上、新しい「1」も彼らの眼となり、歴史が変わる瞬間を世界へ伝える。



EOS-1D X Mark II

●有効約2020万画素35mmフルサイズCMOSセンサー ●常用ISO 51200、H3・409600相当の高感度 ●高速・高画質処理を可能にする、デュアルDIGIC 6+ ●新開発の約36万画素RGB+IR測光センサー ●AF/AE追従で約14コマ/秒*、最高約16コマ/秒*の高速連続撮影 ●全点F8対応、新61点レティクルAF ●GPS機能、有線LAN機能内蔵 ●DCI 4K/60P、フルHD/120Pハイフレーム動画撮影 ●すべてのEFレンズでデュアルピクセルCMOS AFが可能 ※バッテリーバックLP-E19使用時。 ※条件によって最高連続撮影速度が低下します。



90 million
EOS

130 million
EF

EOSは2017年9月20日に累計生産台数9,000万台、EFレンズは2017年10月12日に累計生産本数1億3,000万本を達成しました。



EOSホームページ canon.jp/eos

キヤノンお客様相談センター/デジタルカメラ

☎ 050-555-90002

[受付時間] 平日・土・日・祝日 9:00~18:00(1/1~3は休ませていただきます。) ※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。 ※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社